

製造業の知財戦略を支援する「知財AI(TM)」プロジェクトの詳細解説

プロジェクト概要と狙い

図：製造業の現場とAIが協働する「知財AI(TM)」のコンセプトイメージ。知財業務に生成AIを取り入れることで、特許データが現場の戦略資源となる。

リーガルテック株式会社は2025年9月19日、製造業の知的財産戦略強化とDX推進を目的に、自社開発の知財AIプラットフォーム「AI IPGenius on IDX × MyTokkyo.Ai」の本格展開を開始しました¹。これは**知財業務における生成AI活用の最前線**を担うプロジェクトで、特許調査から出願支援、侵害リスク分析、技術戦略の立案に至るまで知財業務全般を包括的に支援することを目指しています²。同社は本プロジェクトにより、日本の製造業において急務とされる知財戦略の高度化とデジタルトランスフォーメーションの加速を図る考えです¹。

プラットフォームの構成と特徴

知財AI(TM)プロジェクトは、**特許検索AIプラットフォーム「MyTokkyo.Ai」と、AI統合エンジン「AI IPGenius on IDX」**という2つのコアシステムを統合した新しい知財支援基盤です³。このプラットフォームにより、**発明アイデアの創出から先行技術調査、特許出願書類の作成、知財戦略立案まで**、知財業務のすべてを一つのAIシステム上でカバーできます。実際、「発明メモの構造化から特許明細書の生成、先行技術調査、契約支援、知財戦略立案」に至る包括的な機能を備えた、日本初の一気通貫型の知財AIプラットフォームとなっています⁴。従来は属人的で時間のかかったこれら知財業務が大幅に効率化され、**数週間～数ヶ月を要していた業務が数時間～数日で完了し得る**とされています⁵。また、専門人材が不足しがちな中小・中堅企業や研究機関でも、当プラットフォームは**専門知識がなくとも使えるUI**を備え、誰でも均一な品質で知財業務を実行できるよう設計されています⁶。これにより、知財部門に限らず研究開発部門などでも高度な知財活動が可能となり、知財業務の生産性と創造性を飛躍的に向上させることが期待されています⁷⁸。

技術的な革新点として、本プラットフォームは生成AI（特化型LLM）とRAG（Retrieval-Augmented Generation；**検索拡張生成**）技術を組み合わせている点が挙げられます²。RAGとは、大規模言語モデル(LLM)による回答生成の前に**信頼できる知識ベースから関連情報を検索して参照し、出力の正確性を高める手法**です⁹。このRAG技術により、AIが社内外の膨大な技術文書・論文・特許明細書データベースから関連性の高い情報を瞬時に抽出し、その内容を根拠とした専門性の高い回答をリアルタイムで提示できます¹⁰。例えば、MyTokkyo.Aiで蓄積した世界中の特許データや技術情報を検索し、**類似特許の調査結果に基づいて明細書やクレームのドラフトを自動生成**することも可能になっています¹¹¹²。生成AIが持つ文章生成力と、検索AIが持つ正確な情報検索力を組み合わせることで、単独では困難だった高精度で信頼性のある知財情報の生成を実現しているのです¹³¹⁴。加えて、本システムには**業界別のプロンプトテンプレート**が組み込まれている点も特筆されます¹⁰。製薬、機械、バイオ、大学など各業界・業種に特化したテンプレートが用意されており、ユーザーは適切な指示や質問を選ぶだけで専門家レベルのアウトプットを得ることができます¹⁵¹⁶。テンプレート化された専門知識により、これまで属人性が高かった特許要約の作成や先行技術レビューなども誰もが実行可能となり、アウトプットの質も均一化されます¹⁷¹⁸。

また、**VDR（バーチャルデータルーム）基盤**を応用したセキュアな環境も備わっており、機密性の高い知財関連文書を安全に一元管理・共有できるのも大きな特徴です¹⁰¹⁹。VDRとは企業間で機密文書をやり取りする仮想データ保管庫のことで、本プロジェクトではその技術を知財ナレッジ管理に活用しています¹⁹。アクセス制御や閲覧履歴管理を含む堅牢なセキュリティ環境下で、特許明細書や契約書、発明提案書などを保

管・検索し、社内の必要な部署と円滑に知財情報を共有できます²⁰²¹。このセキュアなRAG検索インターフェースにより、社内外の関係者が安心してAIを活用できる基盤が整っています¹⁰。実際、同社のMyTokkyo.Aiでは**ユーザー入力データをAIの学習に用いない設計**とすることで機密情報の漏洩を防ぎ、内部での二次利用も行わないなどセキュリティに配慮した仕組みを採っています²²。さらに、特許分野に特化したチューニングと特許データベースを用いたRAGにより、生成AI特有の**ハルシネーション（事実と異なる出力）を抑制**する工夫もされています²³。これら技術的工夫によって、知財AIプラットフォームは**高い安全性と回答品質**を両立し、企業が安心して知財データの活用にAIを取り入れられるようになっています²³²²。

多部門にまたがる活用効果

知財AI(TM)プラットフォームの導入により、**企業内の複数部門で知財データを有効活用できる点**も重要です。企業の**知財部門**においては、本システムが発明の発掘（発明提案）から特許ポートフォリオ管理まで一元的に支援し、アイデア段階から権利化・戦略立案までの流れをスムーズにつなぎます²⁴。**研究開発部門**では、煩雑だった発明提案書の作成や発明メモの管理がAIによって自動化され、過去の関連特許をAIが即座に参照・要約することで**R&D担当者自らが先行技術の把握や改良アイデア創出を行える**ようになります²⁴。これにより、研究者は特許調査の負担を減らしつつ自分の研究テーマに関連する技術動向を把握でき、研究開発の効率向上と発明の質向上が期待できます²⁴。また、**事業企画・戦略部門**にとっても、特許データを経営視点で分析し**自社の技術優位性や競合の特許動向を可視化**することが容易になります。従来、企画部門が特許情報を活用しようとしてもデータが属人的・複雑でうまく使えないケースが多く、「コア技術を守れていない」と悩むスタートアップが少なくないと言われます²⁵²⁶。知財AI(TM)はこうした課題を解決し、企画部門でも専門知識なしに特許データを横断分析して**知財戦略に基づく事業計画**を立案できるようサポートします²⁷²⁸。さらに、**大学・研究機関**では、研究成果の特許出願書類作成や共同研究契約の管理をAIが支援するため、研究者自身が煩雑な手続きを意識せずに成果の知財化を円滑に進められます²⁴。知財人材やノウハウが不足しがちな大学・ベンチャーにとって、知財AI(TM)は**知財専門家の代わりとなるパートナー**として機能し、コア技術の権利化と戦略活用を後押しします²⁸。加えて**法務部門**では、契約書類についてAIがナレッジベースを横断検索して関連条項や過去の契約事例を提示したり、AIによる契約書チェック機能を活用したりすることで、契約実務の効率化とリスク低減が図れます²⁴。このように本プラットフォームは、知財部門のみならず**経営層から現場の技術者まで**、企業内の様々な部門・職種に知財データを活かす土台を提供し、特許データが**R&D・知財・企画部門の共通言語**として機能することを目指しています²⁹³⁰。

製造業における導入意義と背景

日本の製造業では近年、製品や技術力による競争だけでなく**知的財産（特許等）による競争優位の確立**が成長戦略の鍵を握るようになっていきます³¹。技術の高度化に伴って特許出願件数も世界的に増加し、各社が自社の知財ポートフォリオを充実させつつ他社の権利網をかいくぐる戦略が求められる状況です。こうした中で、従来は属人的な知見に頼っていた知財戦略をデータ駆動型に転換しようというのが知財AI(TM)プロジェクトの狙いです。リーガルテック社の佐々木隆仁社長は「日本の製造業の強みは技術力と現場力にあります。そこに知財AIを掛け合わせることで、“**現場発の知財経営**”という新たなモデルを生み出せると確信しています」と述べており³²、現場（製造現場・研究現場）発のアイデアをAIが支援して特許という形で権利化し、その知財情報を経営戦略に直結させることで競争力強化につなげる構想を示しています。知財AI(TM)はまさに、**企業の技術資産を攻めの武器に変えるデジタル基盤**と位置付けられており、日本企業が国際的な知財競争を勝ち抜くための切り札として注目を集めています³¹。特許を「取得するだけ」で終わらせず「使える特許」へと昇華させることで、知財が真に事業価値を生む時代を目指す取り組みと言えます³³²⁷。

また、多くの製造業では**知財人材の不足や世代間のノウハウ継承の問題**も指摘されています²⁸。ベテランの知財担当者に依存していた業務が属人化し、引退や異動で知見が途絶えるリスクや、専門人材を新たに確保できない中堅企業の悩みもあります。本プロジェクトのAI IPGenius on IDXは、そのような人材不足に直面する現場でも使いやすいよう設計されており、難解な特許用語や制度知識がなくても操作できるUIとテンプレートで**知財業務のハードルを下げています**⁶。例えば現場の技術者が発明のアイデアを書くだけで、AIが適切な発明提案書形式に再構成したり³⁴、関連する先行特許のリストアップまで自動で提案してくれる¹⁶た

め、専門担当者が不足していても一定レベルの知財対応が可能になります。これにより、中堅・中小の製造業でも自社のコア技術を権利化し「攻めの知財」を仕掛けることができるよう支援するのが知財AI(TM)の価値です²⁸。さらに、R&D部門と知財部門の連携不足という従来からの課題にも、本プラットフォームは解決策を提供します。AIを介して**発明段階から特許取得・活用までの情報を一元管理共有**することで、開発現場と知財部との情報断絶を解消し、経営層も含めて社内全体で知財戦略を共有できる体制を築きます³⁵。こうした社内DXの効果により、企業全体で知財を活かした価値創出サイクルを回していくことが期待されています^{36 27}。

今後の展開と展望

リーガルテック社はこの知財AI(TM)プラットフォームを**今後3年間で1,000社以上の製造業企業やスタートアップ**に導入する計画を掲げています³⁷。まず製造業を皮切りに、業界別ソリューションとして「**AI CutleryMaster**」(刃物・工具産業向け)、「**AI Robotix**」(ロボティクス産業向け)、「**AI Mobility**」(モビリティ・自動車産業向け)といった垂直展開を加速させる予定です³⁷。各業界固有のニーズに合わせたチューニングを施し、知財AI(TM)を各分野の“業務のOS”的な存在として普及させる狙いです。さらに同社は、知財AI(TM)を核とした**産業知財DXエコシステム**の構築を目指しています³⁷。産学連携やオープンイノベーションの文脈でも、リーガルテック社の**共同開発支援プラットフォーム「リーガルテックVDR」**等と組み合わせて、企業間・組織間で知財情報を安全にやり取りしながらAIが分析支援する環境を整え、日本発のグローバル知財AIカンパニーとして地位確立を目指す方針です³⁷。

グローバル展開にも積極的で、**業界別テンプレートの更なる拡充**や日英中など多言語対応を進め、欧米・アジア各国へのサービス提供も視野に入れています³⁸。実際、本プロジェクトは日本発のIPテック産業の創出を掲げており、将来的には欧米やASEAN市場へ知財AIプラットフォームを展開する計画が示されています³⁸。その際には各国の特許データベースや言語への対応はもちろん、現地企業・特許事務所とのパートナーシップを通じて知財業務のグローバルDXを支援していくとみられます。また、「**知財AI(TM)**」という**新たな業界ジャンルの確立**を目指し、産業界の多様なパートナー企業と連携して知財×AIの融合による新たな価値創出を推進するとも表明されています³⁶。例えば企業の社内システムとの**API連携**を可能にして既存ワークフローに組み込みやすくしたり、各社固有のデータと本プラットフォームを接続して**カスタムAIエージェント**を構築するような取り組みも検討されています³⁶。さらに、グローバル特許戦略への対応支援(海外特許出願の最適化や他国特許調査など)も視野に入れており、ユーザー企業が国際舞台で知財競争力を発揮できるようサポートするとしています³⁶。総じてリーガルテック社は、本プロジェクトを通じて「**知財AI(TM)プラットフォームの標準化と国際展開**」を成し遂げ、日本発の知財AIソリューションを世界に広めていく構想です³⁸。

以上のように、「知財AI(TM)」プロジェクトは生成AIと検索技術を駆使して知的財産業務を革新する次世代プラットフォームであり、特に日本の製造業における知財戦略の高度化に寄与するものとして期待されています。従来の人に依存した知財業務をデジタル化・知能化し、社内外の知財データを資源として最大活用することで、「**持っているだけの特許**」から「**使える特許**」へ発想を転換する挑戦と言えるでしょう³³。知財AI(TM)の本格展開により、今後どのように企業のイノベーション創出や競争力強化が実現されていくのか、引き続き注目されます。

参考資料・出典: リーガルテック株式会社 プレスリリース^{39 37 5 40}、製品紹介ページ^{41 20}、他(詳細は文中のハイパーリンクを参照)

^{1 2 10 31 37 39} リーガルテック社、製造業の知財戦略支援に「知財AI(TM)」プロジェクトを本格展開(2025年9月19日) - エキサイトニュース

https://www.excite.co.jp/news/article/Prtimes_2025-09-19-42056-312/

3 5 6 7 8 32 35 38 40 リーガルテック社、「知財AI(TM)」プロジェクト始動、特許業務の未来を変える次世代AIプラットフォームを発表 (2025年9月6日) - エキサイトニュース
https://www.excite.co.jp/news/article/Prtimes_2025-09-06-42056-302/

4 19 24 「発明から戦略」まで一気通貫、新しいAIプラットフォームで製造業を支援 (2025年9月19日) - エキサイトニュース
https://www.excite.co.jp/news/article/Prtimes_2025-09-19-42056-310/

9 RAG とは何ですか? - 検索拡張生成 AI の説明 - AWS
<https://aws.amazon.com/jp/what-is/retrieval-augmented-generation/>

11 12 15 16 17 18 20 21 34 41 AI IPGenius - AIのためのデータ利活用ソリューション IDX.jp
<https://www.idx.jp/aifactory/list/ipgenius/>

13 RAG（検索拡張生成）とは？仕組みや活用例、メリットを解説
https://aismiley.co.jp/ai_news/what-is-rag/

14 RAG（検索拡張生成）とは？仕組みや活用例、精度向上のノウハウ ...
<https://www.dir.co.jp/world/entry/solution/rag>

22 23 25 26 27 29 30 33 生成AIで“特許データ”がR&D・知財・企画部門の共通言語に | リーガルテック株式会社のプレスリリース
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000304.000042056.html>

28 36 リーガルテック社、知財業務DXを加速「知財AI（TM）」プロジェクト始動 - WorkMaster（ワークマスター）
<https://www.work-master.net/2025365556>